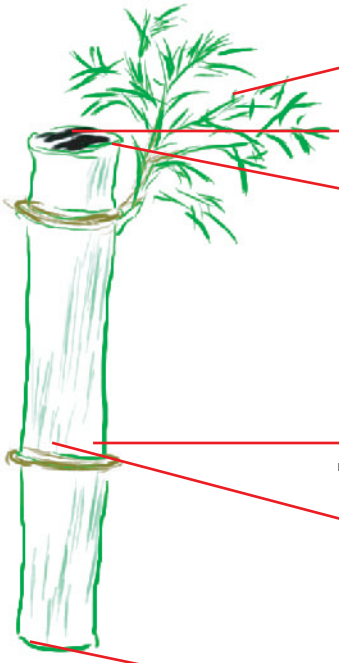
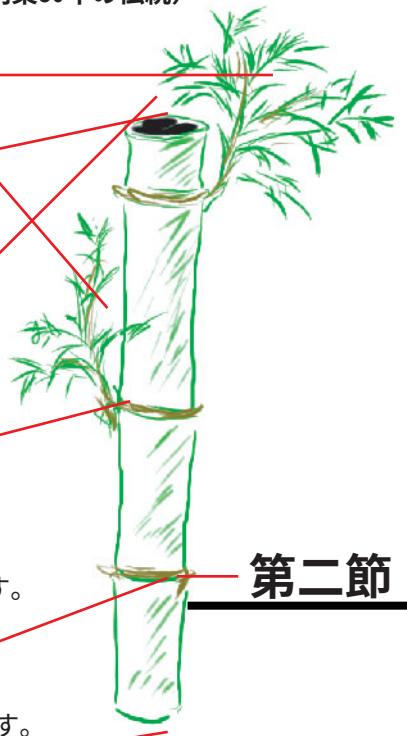
花の百花園 オリジナル新竹

百花園では毎年23日頃に今年の新竹を、独自の手法で水揚げをし、毎年好評を得ています。
これは先代より受け継いだ老舗ならではの手法です。（創業80年の伝統）





（竹の）葉

はじめからある程度は切ってありますが、
竹の葉は好きなように切って頂けます。

留栓

留栓には新聞紙を使用しています。

水栓口

留栓を外し、水を足してください。
※　絶対に中の溶液を捨てないでください。

第一節

溶液が入っている筒は、竹の節まで入っています。
（　２段の竹は第二節まであります。　）

第二節

保存水留節

溶液（保存水）は竹の葉が付いている下の節までです。
この間「竹筒」には切込みや穴など絶対に開けないでください。

切口

「保存水留節」より下はご自由に切ったり、細工ができます。
水に漬けておくとより長持ちしますが、90%の水分補給は、
「保存水・溶液」で行っておりますので、場合により水が
ついていなくても長く楽しめます。

市場などで流通している竹は、長く楽しむことが難しいようです。弊社の竹は全く異なった手法によるものです。注意事項などを参考にして頂ければ、長く（１月以上）楽しむことができます。

【保水】
保水は「留栓」を抜き「水栓口」より補充をしてください。補充が済みましたら速やかに「留栓」を元に戻してください。

【溶液】保存水
この溶液は、絶対に捨てないでください。竹筒から出すこともしないでください。水を足すだけで十分です。
弊社の溶液は無害です。口にしても毒性などはございません（あえて飲まないでください）ので安心してご利用頂けます。成分の中に石膏のようなものがございますので、衣服や家財などに付着しないようご注意ください。

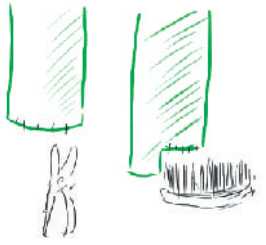
【水のタイミング】
水のタイミングは非常に難しいです。常に満水もしくは、保存水の中を空にしないでください。お部屋の乾燥状態や気温にも左右されます。
また竹が太い方がより蓄えが効き、細い方が早く水を与えなくてはなりません。竹の葉の量にも左右され、多いと早々に保存水が無くなりますので、ご注意ください。

【扱い方】活け方
自由に形成したり、創作や古典にも活かされます。基本的な事柄のみ簡単に記述しておきましたので参考にしてください。貴方のアイディア１つで様々な活け方が可能です。

花瓶などにそのまま飾れます。
竹は丸いので、向きなどを固定する事ができません。

古典的では、ナタやノコギリを使用して、足元に細工を施します。

剣山にも立てる事ができます。
節まで切れないように、縦に切込みを入れると、刺しやすいようです。



87gift.net
〒467-0827
名古屋市瑞穂区市下坂町2-3
052-882-3890　　881-4543